

令和7年度 第2回むつみ会委員会記録

- ・期日:11月29日(土)
- ・会場:視聴覚室

1 挨拶(むつみ会会長)

2 第2回「親の学び講座」(14:00~)

演題:「『違和感を感じる力』

~AI時代を生き抜くために~」

講師:青山 和也 氏

(株式会社エクシーズ 代表取締役社長、前むつみ会会長)



講演趣旨

青山社長はIT企業を経営し健診や病理検査システム等の医療分野にAIの技術を提供して、医療従事者のストレス軽減をサポートするべく医療業務の効率化を図る仕事にも携わっていらっしゃいます。IT専門家の視点と、本校の前むつみ会会長という親の立場の双方から、急速に進化するAI社会における現代をどう生きるべきか、について講演されました。

生成AIの進化について触れ、これにより人間の生活が便利で飛躍的に向上している現状を解説されました。しかしAIが提示する回答は、あくまで「過去のデータから導き出された確率の高い答え」であり、事実とは異なる場合やAIの作業効率が非常に良い為に、人間は従来の作業プロセスを奪われてしまい「人間独自」の感情である、達成感を得にくくなる傾向にある。だからこそ、これから時代で最も必要となるのは、AIが出した答えに対して「何かおかしい」「本当にこれで良いのか」と直感的に気づくことができる能力「違和感を感じる力」を持つことが大切であると話されました。小さな危険を察知して問題の拡大化を阻止するのが人々のテーマだと話されました。

また、現代社会では「機能的価値(効率、スピード、正解への最短距離)」が重視されがちだが、人間の豊かさや創造性は「情緒的価値(無駄、回り道、失敗、感動)」にて得られる大切なものであると考えておられ、青山さん自身がイスラエルやバヌアツ共和国を訪問した際の体験を画像とともに紹介されました。そして統計で、バヌアツ共和国と日本とのHPI(幸福度)を比較すると、バヌアツ共和国は経済的に裕福な指標GDPは低いが、人とのコミュニティの強さが起因して幸福感が高くなっている、訪問された現地の小学校でも児童が自然の中でのびのび遊ぶ姿に感銘したと話されました。

保護者としては、これからの方者に対して(子供たち)は今後きちんとAIを使い、積極的に活用していくべきだと思うし、我々が新たな価値を生み出すのだと認識しながら使っていくことや、その際には意識的に生活の中で非効率的な時間を保持して近所を散歩する等、自身の「感性のアンテナ」を広げるための取組みを工夫することが必要だと話されました。

3 謝辞(副会長)

4 第2回むつみ会委員会(15:30~)

挨拶(校長)

・各学年概況および行事報告

